

# 数学演習第二 (演習第1回)

線形：前期線形の復習 (空間の直線と平面, 内積・外積を含む) 2023年10月4日

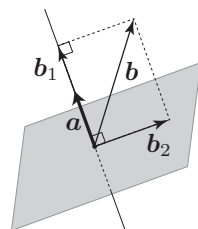
## 要点 (内積・外積, 空間の直線と平面)

### A 内積・外積 (線形 p.4, pp.7-8)

空間ベクトル  $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix}$  に対して,

(1)  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} := a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3$ ,  $\|\mathbf{a}\| := \sqrt{\mathbf{a} \cdot \mathbf{a}} = \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}$  をそれぞれ  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の **内積**,  $\mathbf{a}$  の **長さ (大きさ, ノルム)** という.  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  のなす角を  $\theta \in [0, \pi]$  とすれば,  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \cos \theta$  が成り立つ. (平面ベクトルに対しても同様)

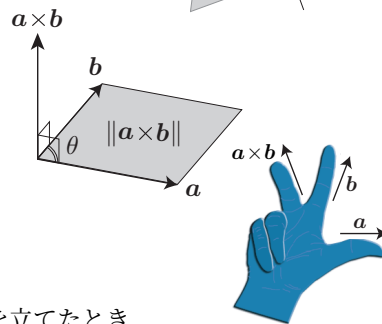
(2)  $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\mathbf{b}$  は  $\mathbf{b} = \mathbf{b}_1 + \mathbf{b}_2$  ( $\mathbf{b}_1 = t\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}_2 \cdot \mathbf{a} = 0$ ) の形に一意に分解できる (実際,  $\mathbf{b} \cdot \mathbf{a} = \mathbf{b}_1 \cdot \mathbf{a} = t\|\mathbf{a}\|^2$  より  $t$  が定まり,  $\mathbf{b}_1 = \frac{\mathbf{b} \cdot \mathbf{a}}{\|\mathbf{a}\|^2} \mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}_2 = \mathbf{b} - \frac{\mathbf{b} \cdot \mathbf{a}}{\|\mathbf{a}\|^2} \mathbf{a}$  となる). このとき,  $\mathbf{b}_1$  を  $\mathbf{b}$  の「 $\mathbf{a}$  に平行な直線」への**正射影** (または  $\mathbf{a}$  への正射影),  $\mathbf{b}_2$  を  $\mathbf{b}$  の「 $\mathbf{a}$  に垂直な平面」への正射影と呼ぶ.



(3)  $\mathbf{a} \times \mathbf{b} := \begin{bmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{bmatrix}$  を  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の **外積 (= ベクトル積)** と呼ぶ.

$\mathbf{a}, \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$  が平行でないとき,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  のなす角を  $\theta \in (0, \pi)$  とすれば,

- ①  $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$  は  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  の両方と垂直,
- ②  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{a} \times \mathbf{b}$  は**右手系**,
- ③  $\|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\| = \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta = (\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が作る平行四辺形の面積).



なお,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  が**右手系** (をなす) とは, 右手の親指, 人差し指, 中指の3本だけを立てたとき, 3本の指が指す方向をこの順に  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  の方向に合わせることができることをいう. 行列式を用いれば,  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}] > 0$  であることに他ならない.

### B 面積・体積 (線形 p.6, p.8, pp.85-86)

(1) 平面ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  に対して,

$$\mathbf{a}, \mathbf{b} \text{ の作る平行四辺形の面積 } S = |\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b}]| \quad (= \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta = \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2}).$$

(2) 空間ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  に対して,

$$\mathbf{a}, \mathbf{b} \text{ の作る平行四辺形の面積 } S = \|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\| \quad (= \|\mathbf{a}\| \|\mathbf{b}\| \sin \theta = \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2}),$$

$$\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \text{ の作る平行六面体の体積 } V = |\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]| \quad (= |(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}| = |\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c})|).$$

### C 空間内の直線と平面 (線形 pp.10-13)

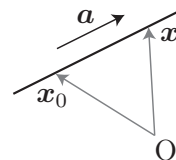
空間の点  $\mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} x_0 \\ y_0 \\ z_0 \end{bmatrix}$  とベクトル  $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix} \neq \mathbf{0}$  に対して,

(1) 点  $\mathbf{x}_0$  を通り,  $\mathbf{a}$  を**方向ベクトル**とする直線 ( $\mathbf{a}$  に平行な直線) の方程式は,

$$\mathbf{x} = \mathbf{x}_0 + t\mathbf{a} \quad \left( \Leftrightarrow \begin{cases} x = x_0 + at \\ y = y_0 + bt \\ z = z_0 + ct \end{cases} \right) \text{ より, } \frac{x - x_0}{a} = \frac{y - y_0}{b} = \frac{z - z_0}{c}.$$

(ベクトル方程式)

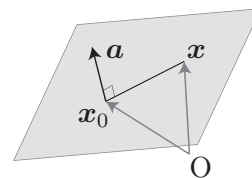
(右の表現は  $abc \neq 0$  の場合の形. 例えば  $ab \neq 0, c = 0$  なら,  $\frac{x - x_0}{a} = \frac{y - y_0}{b}, z = z_0$  となる.)



(2) 点  $\mathbf{x}_0$  を通り,  $\mathbf{a}$  を**法線ベクトル**とする平面 ( $\mathbf{a}$  に垂直な平面) の方程式は,

$$\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0, \quad \text{すなわち } a(x - x_0) + b(y - y_0) + c(z - z_0) = 0.$$

(右の表現は通常  $ax + by + cz + d = 0$  または  $ax + by + cz = d$  の形に整理する.)



## 演習問題 a (内積・外積, 空間の直線と平面)

- a1** (1)  $\mathbf{u} = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix}, \mathbf{v} = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  に対して,  $\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}, \mathbf{u} \times \mathbf{v}, \|\mathbf{u}\|, \|\mathbf{v}\|, \mathbf{u}, \mathbf{v}$  のなす角,  $\mathbf{v}$  の  $\mathbf{u}$  への正射影を求めよ.  
更に,  $\mathbf{u}, \mathbf{v}$  の作る平行四辺形の面積を求めよ.
- (2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3, \mathbf{a} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\mathbf{b}$  の「 $\mathbf{a}$  に平行な直線」への正射影  $\mathbf{b}_1$  と,  $\mathbf{b}$  の「 $\mathbf{a}$  に垂直な平面」への正射影  $\mathbf{b}_2$  に対し,  $\|\mathbf{b}_1\|$  と  $\|\mathbf{b}_2\|$  を  $\|\mathbf{a}\|, \|\mathbf{b}\|, \mathbf{a} \cdot \mathbf{b}, \|\mathbf{a} \times \mathbf{b}\|$  を用いて表せ (要点 **A** (2) の説明も見よ).
- (3)  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}]$  ( $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c} \in \mathbb{R}^3$ ) に余因子展開を適用して  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{c}] = \mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} \times \mathbf{c}) = (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}$  を示せ. 更に, この関係式を用いて, 次を示せ: ①  $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{a} = (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{b} = 0$ , ②  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が 1 次独立ならば  $\det[\mathbf{a} \ \mathbf{b} \ \mathbf{a} \times \mathbf{b}] > 0$  (すなわち  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{a} \times \mathbf{b}$  が右手系).
- (4)  $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^3$ , 3 次直交行列  $Q$  ( $\stackrel{\text{def}}{\Leftrightarrow} {}^tQQ = Q{}^tQ = E$ ) に対して,  $Q\mathbf{a} \cdot Q\mathbf{b} = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  (従って  $\|Q\mathbf{a}\| = \|\mathbf{a}\|$ ) 及び  $Q\mathbf{a} \times Q\mathbf{b} = \pm Q(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$  ( $\pm$  は  $\det Q \in \{\pm 1\}$  の符号を表す) を示せ.

**a2**  $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{bmatrix}, \mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{bmatrix}, \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$  で,  $c$  は定数とする. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 1 つの式からなる連立 1 次方程式  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{x} = c$  を解け.
- (2) 連立 1 次方程式  $\mathbf{a} \times \mathbf{x} = \mathbf{b}$  が解をもつための  $\mathbf{b}$  の条件を  $b_3 = (b_1, b_2 \text{ の式})$  の形で表せ. (ヒント: まず,  $\mathbf{a} \times \mathbf{x} = A\mathbf{x}$  となる行列  $A$  を定めよ.)
- (3)  $\mathbf{b}$  が (2) の条件を満たすとき, 連立 1 次方程式  $\mathbf{a} \times \mathbf{x} = \mathbf{b}$  を解け.

- a3** (1) **a1** (2) を利用して次を示せ.

- (i) 点  $\mathbf{x}_1$  と要点 **C** (1) の直線の距離 (垂線の長さ) は  $\frac{\|\mathbf{a} \times (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)\|}{\|\mathbf{a}\|}$  で与えられる.
- (ii) 点  $\mathbf{x}_1$  と要点 **C** (2) の平面  $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x} - \mathbf{x}_0) = 0$  との距離 (垂線の長さ) は  $\frac{|\mathbf{a} \cdot (\mathbf{x}_1 - \mathbf{x}_0)|}{\|\mathbf{a}\|}$  で与えられる. 平面が  $ax + by + cz + d = 0$  の形なら  $\frac{|ax_1 + by_1 + cz_1 + d|}{\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}}$  (重要) となる.

- (2)  $A(1, 1, -1), B(2, -2, 2), C(3, -1, 0), D(-1, 3, 3)$  とする.

- (i) 直線  $AB$  (2 点  $A, B$  を通る直線) の方程式を求めよ.
- (ii) 平面  $ABC$  (3 点  $A, B, C$  を通る平面) の方程式を求めよ. (まず法線ベクトル  $\overrightarrow{AB} \times \overrightarrow{AC}$  を求めよ.)  
また, 点  $D$  とこの平面の距離を求めよ.
- (iii) 点  $A$  を通る平面  $ABC$  の法線 ( $\ell$  とする) の方程式を求めよ. また, 点  $D$  と直線  $\ell$  の距離を求めよ.

**【注】** (ii), (iii) の距離は, それぞれ点  $D$  から平面  $ABC$ , 直線  $\ell$  に下ろした垂線の長さに他ならない. この点に注目すれば (1) を利用しなくても計算できる (まず “垂線の足” の座標を求める).

(3) 直線  $l: \frac{x-4}{5} = \frac{y+1}{3} = \frac{z+2}{-4}$  と平面  $\alpha: 5x - 4y - 3z = 5$  について考える.

(i) 直線  $l$  と平面  $\alpha$  の交点  $x_0$  を求めよ.

(ii) 直線  $l$  を平面  $\alpha$  上に正射影して得られる直線  $m$  ( $x_0$  を通り, “ $l$  の方向ベクトルの平面  $\alpha$  への正射影” を方向ベクトルとする直線) の方程式を求めよ.

(iii) 直線  $l$  と平面  $\alpha$  のなす角 (= 2直線  $l, m$  のなす角) を求めよ.

(iv) 2直線  $l, m$  を含む平面の方程式を求めよ.

(4) 2直線  $\frac{x+c}{5} = \frac{y-1}{3} = \frac{z-2}{4}$ ,  $\frac{x+4}{5} = \frac{y-5}{-4} = \frac{z+1}{3}$  ( $c$  は定数) について考える.

(i) 2直線のなす角を求めよ.

(ii)  $c = -1$  のとき2直線は交わる. 2直線の交点の座標と2直線を含む平面の方程式を求めよ.

(iii)  $c = 14$  のとき2直線はねじれの位置にある (平行でなく共有点を持たない). 2直線の共通垂線 (両方と垂直に交わる直線) の方程式を求めよ.

## レポート課題

- 答だけでなく, 計算の過程も書いて下さい. (A4用紙1~2枚にまとめて pdf ファイルに変換して提出)
- 授業に出席し, レポートを授業翌日までに WebClass に提出して「出席」となります.

I A(1, 2, 0), B(-1, 1, 3), C(4, 4, 1) とする.

(1)  $(\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC}$  を求めよ. ただし, O は原点を表す.

(2) 平面 ABC の方程式を求めよ.

II 直線  $l: x-1 = \frac{y}{2} = \frac{z-2}{3}$  と平面  $\alpha: 2x + y - z + 2 = 0$  について考える.

(3) 直線  $l$  と平面  $\alpha$  の交点 P の座標を求めよ.

(4) 直線  $l$  上にあり, 平面  $\alpha$  との距離が  $\sqrt{6}$  となる点を求めよ.

(5) ベクトル  $\mathbf{v} = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ -1 \end{bmatrix}$  を平面  $\alpha$  に正射影して得られるベクトル  $\mathbf{w}$  を求めよ.

**演習問題 b (連立 1 次方程式, 行列式の復習) —自習用—****b1** 次の連立一次方程式に対して, 拡大係数行列を簡約化することにより解を求めよ.

$$(1) \begin{cases} 2x_1 + 5x_2 - 4x_3 = 5 \\ -x_1 + 2x_2 - 3x_3 = 10 \\ 3x_1 + 4x_2 + 2x_3 = 6 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} x_1 + 2x_2 + x_3 - 3x_4 = 2 \\ 3x_1 + 6x_2 + 4x_3 + 2x_4 = -1 \\ 5x_1 + 10x_2 + 6x_3 - 4x_4 = 3 \\ 2x_1 + 4x_2 + 3x_3 + 5x_4 = -3 \end{cases}$$

**b2** 次の連立一次方程式が解を持つための  $a$  の条件を求めよ. また, そのときの解を求めよ.

$$(1) \begin{cases} ax_1 + 2x_2 = -1 \\ 3x_1 + (a+1)x_2 = 1 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} 5x_1 + 17x_2 - 13x_3 = 2 \\ 4x_1 + 14x_2 - 12x_3 = 1 \\ 2x_1 + 5x_2 + 2x_3 = a \end{cases}$$

**b3** 次の同次連立一次方程式が非自明な解を持つための  $a$  の条件を求めよ. また, そのときの解を求めよ.  
(ヒント: (2) は係数行列の行列式を考えよ)

$$(1) \begin{cases} 2x_1 + 4x_2 - x_3 = 0 \\ x_1 - 2x_2 + 3x_3 = 0 \\ 5x_1 + 6x_2 + x_3 = 0 \\ x_1 + 2x_2 + ax_3 = 0 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} 3x_1 + 3x_2 - (a-6)x_3 = 0 \\ 6x_1 + (a+3)x_2 + 6x_3 = 0 \\ ax_1 + 3x_2 + 3x_3 = 0 \end{cases}$$

**b4** 次の行列の階数を求めよ. また正則な場合には逆行列を求めよ.

$$(1) \begin{bmatrix} 1 & 4 & 5 \\ 2 & 9 & 9 \\ 3 & 14 & 14 \end{bmatrix} \quad (2) \begin{bmatrix} 1 & -3 & 1 & -3 \\ 1 & -2 & 2 & -2 \\ 2 & -5 & 3 & -5 \\ 1 & -1 & 3 & 1 \end{bmatrix} \quad (3) \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 & 2 \\ 1 & 1 & 2 & 1 \\ 1 & 2 & 1 & 3 \end{bmatrix}$$

**b5** 次の行列式の値を求めよ.

$$(1) \begin{vmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 3 & -2 & 1 \\ 0 & 3 & -4 \end{vmatrix} \quad (2) \begin{vmatrix} -1 & 5 & 0 & 6 \\ 2 & -1 & 0 & 0 \\ 1 & 7 & 2 & -9 \\ -3 & 2 & 0 & 0 \end{vmatrix} \quad (3) \begin{vmatrix} x & a & a & a \\ a & x & a & a \\ a & a & x & a \\ a & a & a & x \end{vmatrix} \quad (4) \begin{vmatrix} x & -1 & 0 & 0 \\ 0 & x & -1 & 0 \\ 0 & 0 & x & -1 \\ a_4 & a_3 & a_2 & x + a_1 \end{vmatrix}$$

**b6** 連立 1 次方程式  $\begin{cases} ax + by + cz = d \\ a^2x + b^2y + c^2z = d^2 \\ a^3x + b^3y + c^3z = d^3 \end{cases}$  ( $a, b, c, d$  は定数) について, 次の問いに答えよ.(1) 係数行列の行列式を計算し, 係数行列が正則となるための  $a, b, c$  の条件を求めよ.(2)  $a, b, c$  が (1) で求めた条件を満たすとき, Cramer の公式を用いてこの連立 1 次方程式を解け.